

北水試 百年

こぼれ話

④昭和14年の職員写真

吉田 英雄

キーワード：北水試百年、昭和14年職員写真、氏名、特定作業、エピソード、平野義見、清野文二



写真1 昭和14年北水試職員写真

氏名(敬称略)：最上段左から、1列目 (1)高松要、(2)大野新一郎、(3)不明、(4)菅野六郎、(5)阿部、(6)桜井基博、(7)不明、(8)浜野重吉、(9)矢野弘、(10)村川、(11)尾野武雄、(12)小野塚治助、(13)(14)不明、(15)吉田喜一、(16)堀川キエ、(17)澤田都次、2列目 (18)石栗俊良、(19)西田又八郎、(20)阿部亀吉、(21)坂本孝之進、(22)澤田健次、(23)(24)不明、(25)湯沢正雄、(26)内田一三、(27)不明、(28)福原貞夫、(29)三村英一、(30)田中(近江)ミキエ、(31)鈴木愛子、(32)川内成子、(33)金山トシ、3列目 (34)前田(西川)幸子、(35)岡田ケイ子、(36)高島千鶴子、(37)前田シゲ、(38)八田、(39)塚原、(40)不明、(41)横山勝見、(42)川内滋、(43)平野義見、(44)中島由太郎、(45)川合豊田郎、(46)新谷参四郎、(47)山田武夫、(48)会田庄蔵、(49)辻井カヨ、(50)住吉トモエ、4列目 (51)篠田、(52)岩本薫、(53)鶴羽、(54)不明、(55)木村利吉、(56)稲葉、(57)高橋武司、(58)清水二郎、(59)佐藤栄、(60)今井精一、(61)石田(瀬戸川)良子、(62)西野、(63)久末、(64)大平(久野)都、(65)土門吉太郎、5列目 (66)花井育男、(67)木村鎚郎、(68)横山裕、(69)五十嵐彦仁、(70)梶田與之亮、(71)小田芳蔵、(72)高安三次、(73)倉上政幹、(74)藤川若松、(75)船越鶴男、(76)森保斐、(77)清野文二、(78)真田幸光、(79)長井久正、(80)久野貢

北水試の先輩達はどんな風貌だったのか？そしてどんな時代を過ごしていたのでしょうか。今回は、中央水試図書室に残る戦前の北水試本場における職員集合写真をご紹介します。

この写真の年代と職員氏名の特定作業が、2001年の北水試百周年記念事業と並行して、北水試OBの協力を得て進められました。

余市町に庁舎を移転して、まだ建物が新しい正面玄関前で80人の職員が写っています(写真1)。最後列左の人物から順に1～80の番号を付けました。幸運にも、2列目(30)番の田中(旧姓：近江)ミキエさん(元函館水試田中正午場長の奥様)がご健在で、撮影年が昭和14(1939)年と特定され、田中夫妻からの情報をベースに73名の氏名が

判明しました。

昭和14年と言えば太平洋戦争突入の2年前で、写真の服装からも何となく戦争の陰が感じられなくもありません。最前列は全員背広姿で年齢的にも高く、主要幹部であることは一目瞭然です。両脇の女性陣が緊張感を和らげてはいるものの、まるで理系大学の様な雰囲気です。この当時は、それなりの役職に就くと、高価であった背広を仕立て、これで一人前になったということであり、特に若手の女性陣にとって、幹部はまともに顔も拝めないくらいの存在だったそうです。

以下に紙面の許す限りエピソードをご紹介します。興味のある方は、かつて北水試から発行された研究広報誌である「北水試旬報」や「北水試月報」の著者名と写真を比べてみて下さい。

1列目の(6番)は後にそのワンマンぶりに桜井天皇と呼ばれた初代釧路水試場長桜井基博氏。(11番)ひげが似合う探海丸船長尾野武雄氏。3列目(43番)ニシンの神様とも呼ばれ、余市水産博物館館長となった平野義見氏。(45番)小樽水族館館長となった川合豊太郎氏。4列目(56番)探海丸機関長稲葉氏。5列目(69番)五十嵐彦仁氏と(72番)後の場長高安三次氏は化学分析の専門家で多くの湖沼調査報告を残しています。(73番)倉上政幹氏は翌昭和15年に場長を辞していますが、写真撮影の理由はこのあたりにあったのかもしれない。

最前列右から4番目(77番)の腕組みをしている清野文二氏は、昭和15年に根室支場長となりますが、水産製品調査所長として昭和19年に長崎に転出します。当時の長崎では、国策により県が僅かばかりの金で全国的に有名な長崎水試の庁舎を三菱造船に売却していました。その後、清野氏は原爆投下で壊滅状態となった長崎市で、戦後初の専任場長となり、水産試験場の復興と水産大学の

設置に尽力されたとのことでした。

なお、平野義見氏は「思い出(1977)」という自費出版本を残しています(写真2左)。この本の中で平野氏は、小樽出身の水産学徒兵(少尉)として太平洋戦争に出陣して戦後復学して研究者を目指していた田口泰生氏を、余市の水産試験場で預かっていた時のことを回想しています。田口少尉は、撃墜された米戦闘機搭乗員を上官の命令で殺害したという「石垣島事件」でBC級戦犯として処刑された方で、他の同様の事件と比べて疑問が残ると言われています。私が北水試百周年の後始末をしていた頃、中央水試宛に「水産講習所

海の防人 太平洋戦争における水産講習所海軍士官の記録(2002)」(写真2右)という本が、「縁あって」届きました。この2冊は、中央水試図書室書架のごく近いところに並べられています。

こうして見ると、戦争のない現在の日本で調査研究に従事できる幸せを感じずにはいられません。

最後に資料収集でお世話になった武藤康氏と猪口教子両氏を始めとする北水試友の会及び長崎県総合水産試験場永測量管理部長に感謝致します。

(よしだひでお 稚内水試場長 報文番号 B2320)



写真2 「思い出」と「水産講習所 海の防人」表紙